

ヨーロッパ文明のあけぼの その人々は何処から来たのか？

令和7年10月27日

縄文アイヌ研究会
主宰 澤田健一

約5万年前

約2万3000年前

約1万1700年前

現在

最終氷期

LGM

間氷期

ヨーロッパ

約1万年前

後期旧石器時代

260万年前からの打製石器

新石器時代
竪穴住居

ストーンサークル
メソポタミア文明
キリスト誕生

ローマ帝国誕生

日本列島

約3万8000年前

約1万6000年前

約3000年前

中期旧石器時代

後期旧石器時代
(実質的に新石器時代)

縄文時代

弥生時代

古墳時代
↓令和

約6万5000年前
オーストラリア
刃部磨製石斧

刃台環ナ落
部形状イと
磨様ブフし
製石口形穴
石器ッ石
斧 ク器
群

立切
遺跡
・
定
住

細石器

はさみ山遺跡

2万2千年前

田名向原

2万年前

田名向原

2万年前

有縄文土器
・尖頭器

・石鏃

土偶

・石鏃

あひ
づき
栽培

・

漆塗り
栽培

曾環
畠状
式列石
器

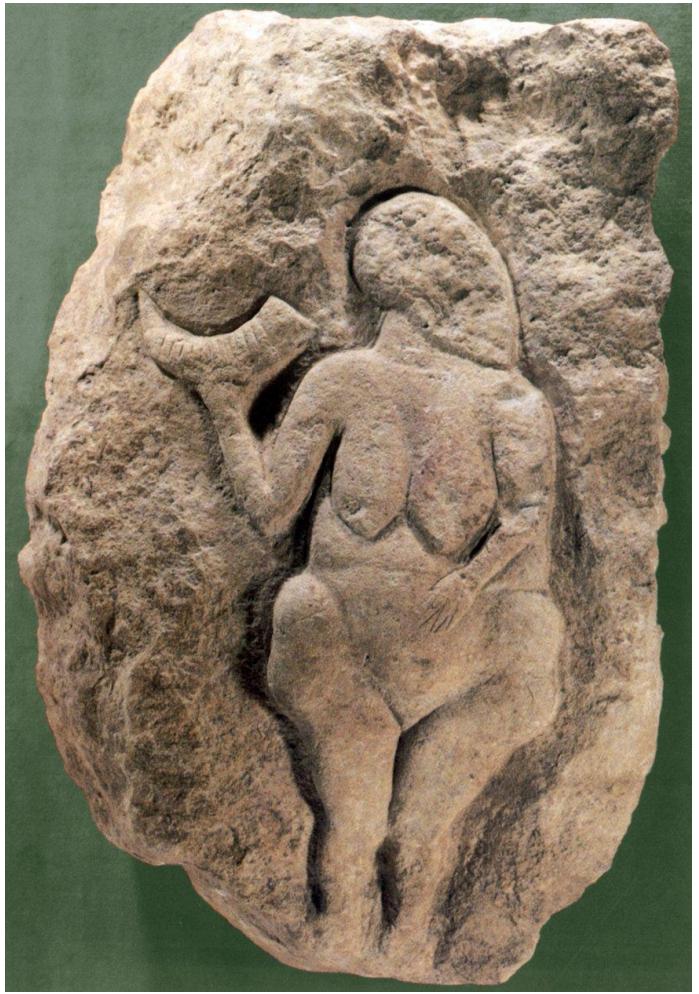
太古のヨーロッパ

- ・後期旧石器時代から初期新石器時代のヨーロッパに居たのは
フェニキア人やケルト人やバスク人（謎の外来海洋民族）
- ・紀元前 6500 年頃のイスラエルの洞窟から**編布**が出土。
- ・バスク人がヨーロッパでもっとも古い民族とされる。バスク語がヨーロッパ言語のうちで**日本語**にもっともよく似た言語だといわれる。どちらかといえば**アイヌ語**の方に近いともいわれる。

文化人類学辞典（弘文堂）

- ・ピレネー山脈周辺の洞窟壁画に**指を切断したネガティブハンド**
= シャーマンの手

旧石器時代のビーナス



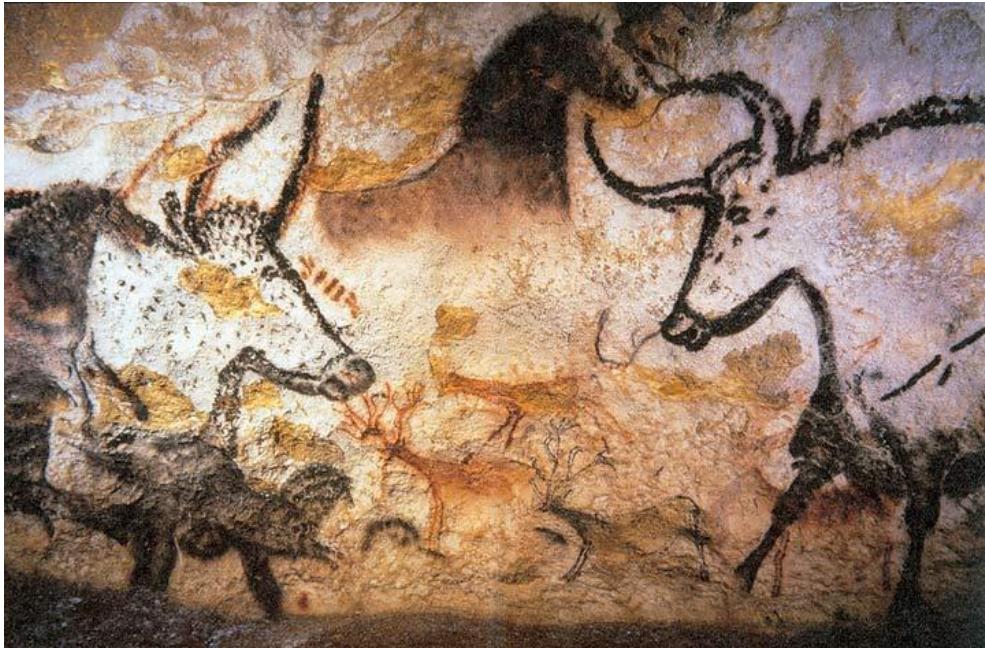
ローセルのビーナス
フランス 前1万9000年頃

縄文のビーナス



長野県 前3000年頃

ウィレンドルフのビーナス
オーストリア 前2万年頃



ラスコー洞窟 約2万年前



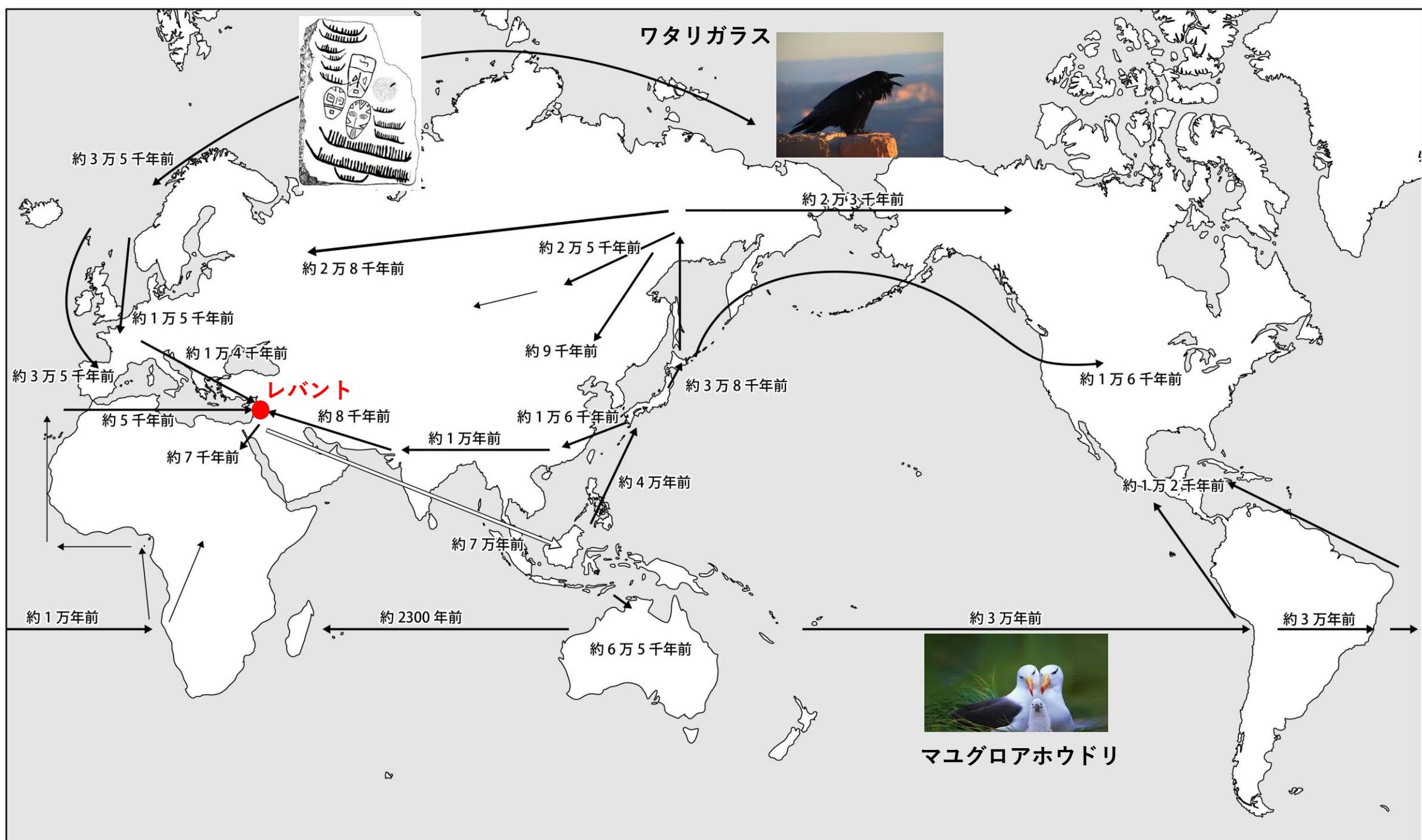
インドネシア・スラウェシ島 約5万1200年前



ネガティブハンド（ガルガス洞窟）

最古の狩猟壁画とされるインドネシアの洞窟壁画が5万1200年前に描かれた可能性があると、豪グリフィス大などのチームが発表した。新手法で分析し、これまで考えられていたより5千年以上古いことが判明したという。3日付英科学誌ネイチャーに掲載された。

朝日新聞デジタル 2024年7月4日



ヨーロッパ中石器時代 (前1万2000年～前5000年頃)

- ・北欧からシベリアに舟に乗る人物の岩面画、貝塚、カムケラミーク
- ・中石器時代は**細石器**を使い始める。細石器は北海道で誕生した。
- ・カヌー、弓矢、木製品、骨角器、刃部磨製石斧、貝塚、漁獲量が激増、河川や湖や海岸への定住が促進、竪穴住居 ⇒ 日本民族の特徴ばかり
- ・中石器時代が終わる頃のバルト海・黒海地域は、**縄目文土器**を使う人々の地域として分類されている。（全6分類）



- ・レバント地方に大変革をもたらした担い手の人々は、どの系統の民族なのか全く分からない。

⇒ **日本民族『夷』**

ウバイト期（前5500～前3500年頃）

- ・ウバイト、エリドゥなどの遺跡から彩文土器が出土。
(土器を作る人がどこからやって来たのか分からない。)
- ・初期頃から交易が開始。
 - 黒曜石 = アジア最西端のアナトリア半島との交易網
 - ラピスラズリ（青金石・瑠璃） = アフガニスタン西部～エジプト
 - 大理石、アラバスター（雪花石膏）、孔雀石、各種の貝、木材
- ・ウバイト後期から大きな町が成立しはじめる。
- ・灌漑農耕がウルク期に引き継がれた。

ウルク期（前3500～前3100年頃）

- ・ウバイト期からの灌漑農耕を引き継ぎ、町は都市化される。
- ・ウバイト人も使っていたスタンプ印章を用いて元祖ハンコ社会。
- ・シュメール語は日本語と同じく膠着語。ヨーロッパに仲間がない。
(シュメール文字は表語文字と音節文字を合わせた日本語システム)
- ・前3000年以前にアンデスで神殿建設が始まり、
ほぼ同時か、やや遅れてシュメールでも神殿建設始まった。

シュメル文明 (シュメールではない)

- ・シュメル人は紀元前3500年頃、突然現れる。古代文明は水辺に発祥
北部アッシリア・南部バビロニア→北アッカド・南シュメル
- ・世界中の考古学者はシュメル人が何処からやって来たのか分からぬ。
- ・世界最古の文字=前3200年頃のウルク古拙文字（絵文字）
→楔形文字（シュメル文字）
- ・自らを「黒髪人」と呼び、数多くの神々がいる多神教の世界で、
一人の尊い人物が半神半人として崇められていた。

↓

黒い髪をした人々、八百万の神々、現人神を戴く日本民族

カルムーク人のシャーマニズム神話

- ・世界の中心に宇宙山がありその名前は**シュメル山**という
- ・神々は**シュメル山**を使って大海をかき回して太陽や月や星を創造した

トゥングース語のsamanに由来、**シャーマン**はロシア語を通して

東部満洲ではその儀式を**荼馬**と書き記す
音で**J'sa-ma**であり、まさしく**Shaman**のこと

古代の中東、エジプト各地に残る十六菊花紋



バビロン王国のイシュタル門



アッシリア王の腕輪



イスラエルのヘデロ門



古代エジプトのロータスの皿



プスセンネス 1 世の黄金の杯



靖国神社の御門

20進法

- ・20進法を使っていた古代バビロニアで60進法が誕生した。
- ・20進法はケルトの数詞
20 ugain 40 deugain 60 trigain 80 pedwar gain
- ・これはアイヌの数え方（おそらく古代日本の数え方）
- ・マヤ文明でも20進法を使っていた。
- ・英語のスコア score は20のかたまり。
- ・フランス語にも「20の4倍」という数え方の単語が残っている。

『夷』の20進法が古代世界各地で使われていた。

紀元前2000年頃になると
シュメール人は何処かへ消えてしまった

世界の古代文明を興した謎の民族は
突然現れて突然姿を消してしまう

ヨーロッパ文明

- ・青銅器時代であった紀元前2000年頃からはじまる
ギリシャのミケーネ文明
- ・「宮殿時代」と呼ばれる黄金時代が紀元前1900年頃にはじまる
クレタのミノア文明
- ・海の霸者ミノアは**世界初の海運帝国**、自分たちの力を信じていた。
- ・ミケーネもミノアも外来の文明⇒シュメール人の消えた直後に発生
- ・紀元前12世紀、原因不明のまま、青銅器時代にあったヨーロッパは突然衰退に陥り、二度と回復しなかった。交易はやみ、都市は見捨てられ、政治機構は破壊されたと指摘される。ヨーロッパから文明が消えた

「上古の世に、未だ文字有らざるときに、貴賤老少、口々に相
伝へ、前言往行、存して忘れず」ときけり。書契より以来、古を
談ることを好まず、浮華競ひ興りて、還旧老を嗤ふ。

古語拾遺（岩波文庫）
斎部広成撰

西宮一民校注